

弥生時代と邪馬台国

旧石器

縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

今日の問い

稲作が広まって社会はどう変わり、どんなクニが生まれたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 弥生時代のくらし

弥生時代

① 米づくり。縄文時代の終わりと大陸から伝わった。

② 縄文土器より薄手でかたい、赤褐色の土器。

⑤ 湿気やねずみを防ぐため床を高くした、稲の倉庫。

⑦ 銅とすずの合金の道具。おもに祭りに使われた。

縄文時代の終わりごろ、大陸から九州北部に ¹ 稲作 が伝わり、やがて東日本へも広まった。このころの、縄文土器より薄手でかたい ² 弥生土器 から、この時代を ³ 弥生時代 という。稲の穂は石でつくった ⁴ 石包丁 でつみ取り、湿気やねずみを防ぐ ⁵ 高床倉庫 にたくわえた。

大陸からは、祭りに使われたつりがね形の ⁶ 銅鐸 などの ⁷ 青銅器 や、武器や工具になる鉄器も伝わった。稲作が広まると、土地や水をめぐってむら同士の争いが起こり、強いむらが周りをまとめて ⁸ クニ ができていった。佐賀県の ⁹ 吉野ヶ里遺跡 は、堀やさくで囲まれたむらのあとである。

2 中国の歴史書に記された倭

中国からみた倭

⑪ 中国の歴史書で、日本(日本列島の人々)を指した呼び名。

⑭ 57年に後漢の皇帝から奴国の王に授けられたとされる印。

⑰ 邪馬台国の女王。まじないで政治を行ったとされる。

当時の日本には文字の記録がないため、弥生時代のようなすは中国の歴史書からもわかる。『¹⁰ 漢書』地理志には、紀元前1世紀ごろ、¹¹ 倭 (日本)が100あまりの国に分かれていたとある。『¹² 後漢書』東夷伝には、57年に ¹³ 奴国 の王が後漢に使いを送り、「漢委奴国王」と刻まれた ¹⁴ 金印 を授けられたとある。この金印とみられるものが、江戸時代に福岡県の志賀島で見つかっている。

『¹⁵ 魏志倭人伝』には、239年に ¹⁶ 邪馬台国 の女王 ¹⁷ 卑弥呼 が魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や銅鏡を授かったとある。卑弥呼は、30ほどの国々を従え、まじないによって政治を行っていたとされる。邪馬台国の位置には、近畿地方とする説と九州地方とする説がある。

歴史書	記されていること
¹⁰ 『 <u>漢書</u> 』地理志	紀元前1世紀ごろ、倭は100あまりの国に分かれていた
¹² 『 <u>後漢書</u> 』東夷伝	57年、奴国の王が後漢から金印を授かった
¹⁵ 『 <u>魏志倭人伝</u> 』	239年、邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送った

できた / 17